

あおぞら教室特別企画

発達障害と高校教育、インクルーシブ教育の現状を考える会 ～ 思春期における高校教育の役割とは ～



基調講演 小野善郎 「思春期の育ちと高校教育～なぜみんな学校に行くんだろう？」

報告 北星学園余市高等学校の取り組み

報告 社会福祉法人 麦の会の取り組み

パネルディスカッション



小野 善郎

和歌山県立医科大学卒業。国保日高総合病院神経精神科医員、和歌山県立医科大学精神神経医学教室助手、和歌山県子ども・女性・障害者相談センター（和歌山県中央児童相談所）総括専門員などを経て、2010年4月より和歌山県精神保健福祉センター所長（和歌山県子ども・女性・障害者相談センター子ども診療室長を併任）。専門は児童青年精神医学。

近著に『思春期の育ちと高校教育～なぜみんな高校に行くんだろう？』『思春期の子どもと親の関係性～愛着が導く子育てのゴール』『移行支援としての高校教育』『続・移行支援としての高校教育』（いずれも福村出版）など、著書多数。

日時 2018年2月4日（日）

開場13:00 開会13:30

終了予定 16:00

場所 札幌市教育文化会館

札幌市中央区北1条西13丁目



地下鉄でお越しの場合

東西線「西11丁目」駅、1番出口から徒歩5分

バスでお越しの場合

「北1条西12丁目」から徒歩1分

左記QRコードをスマホで読み取ってください。
Googleマップで会場の地図が表示されます。

発達障害と診断されたり可能性があると言われた子供達の中学卒業後の進路指導はどうしたらよいか。特別支援学校？一般的な公立高校？それとも通信制？

その現状を考えたり、どうあったら良いかということ、北星学園余市高等学校ではどう取り組んでいるのかを語ったイベントを2016年1月に札幌で開催しました。

今回は、その続編を開催します。

2016年1月にやった内容に沿う形で、思春期における高校教育の役割ってそもそも何だろう？を考える時間として開催します。

思春期の問題については、教育現場だけでは取りこぼす現状があり、精神科医療や福祉的支援に頼っている面があると考えています。この度のイベントにあたって、教育に携わる者として私たちが中心となりながら、精神科医療に携わっている方として小野先生、福祉的支援をされている社会福祉法人麦の子会の北川聡子先生に加わっていただき、有意義な時間になりたいと思います。

アンケート実施中！

「高校」という場を考えるにあたって、みなさんの「高校生活」をお聞かせいただけるとうれしいです。若い子ばかりでなく、40代、50代、60代以上の方も、よろしくお答えください。一言でも短くても良いので、ご協力よろしくお願いいたします。



申込み方法

右記QRコードを読み取りリンク先のフォームにご入力ください。お電話、メールでの申込みも受け付けております。



主催

北星学園余市高等学校

余市郡余市町黒川町19丁目2-1
TEL 0135-23-2165

お問い合わせ
お申し込み

担当：田中

tanaka@hokusei-y-h.ed.jp